

## 【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2025年3月30日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	商学部商学科
留学(渡航)した時の学年	2年生
帰国年月日	2025年3月20日
明治大学卒業予定年月	2027年3月
<b>留学先大学について</b>	
留学先国	ドイツ連邦共和国
留学先大学	ジーゲン大学(日本語名) Universität Siegen(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語、ドイツ語/英語
留学期間	2024年9月～2025年3月
留学先大学で在籍した学年	?年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名:第3学部 現地言語での名称:Fakultät 3  <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期:10 月上旬～3 月下旬 2 学期: 3 学期: 4 学期:
学生数	15000
創立年	1972

## 留学費用

留学費用項目	現地通貨 (ユーロ=約 160 円)	日本円	備考
授業料	320	51,200 円	交換留学のため授業料は免除。学生証代、Deutschland ticket(公共交通機関乗り放題チケット)などが含まれる。厳密に言えば、授業料ではなく登録料です。
宿舍費	363×7	396,000 円	入寮前に初月家賃+2 か月分の敷金を払う必要有。(敷金は退寮後に返金される)
食費	150×6	140,000 円	正確に計算していないため概算
図書費	5	800 円	図書館のロッカーを使用するためのカードです。カードを返却すると返金される
学用品費	1	160 円	印刷用の紙を買った(全 10 枚)
携帯・インターネット費	15×6	14,000 円	Vodafone(3 大キャリアの一つ, esim を使っていました)
現地交通費		0 円	上記の通り Deutschland ticket に全て含まれているためかかっていない(☑大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	2,500	400,000 円	10 か国ほど旅行をしたため概算である
被服費	100	16,000 円	ある程度持って行き、それでしのいだ
医療費	0	0 円	病気、事故、ケガなどは無かったため出費無し
保険費	126×4+139×2	125,000 円	形態:TK(ドイツ在住の人は義務づけられている公的保険。2 月から値上がりした)
渡航旅費		220,000 円	JAL 直行便(往復)
ビザ申請費	75	12,000 円	ドイツ連邦共和国大使館で取得
雑費	200	32,000 円	調理器具など
その他		66,020 円	明治大学により義務付けられている保険
その他	29×7	32,480 円	ジム代
合計	7,717	1,505,660 円	ユーロで決済してない部分もあるので両通貨で計算が合うとは限らない

## 渡航関連

<b>渡航経路</b>
<b>往路</b> 出発地:成田空港 目的地:フランクフルト国際空港 経由地:なし <b>復路</b> 出発地:フランクフルト国際空港 目的地:成田空港 経由地:なし
<b>渡航費用</b>
① 往復チケットを購入した場合 航空会社:JAL  料金:22 万円(往復)  ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:            料金:  復路 航空会社:           料金:                            ∴合計:
<b>航空券購入方法</b>
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:        ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:JAL ホームページ) <input type="checkbox"/> その他(            )
<b>滞在形態関連</b>
<b>1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Hubertusweg 82-84) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
<b>2) 部屋の形態</b>
<input checked="" type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数        )
<b>3) 共有部分</b>
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)
<b>4) 住居を探した方法:</b>
Studirewerk Siegen という大学の寮のホームページに載っている情報を基に立地、間取り、家賃等を調べた。寮以外にも WG-gesucht というアプリでシェアハウスを探すことも可能である。だがこれは住人と個人間でやり取りするため返信が遅い場合もあるので、可能な限り学生寮をお勧めする。
<b>5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)</b>
大学の寮の中では立地は最高である。なぜなら町の中心部(スーパー、銀行、郵便局、市庁舎)も徒歩 15 分以内に行くことができ、私が通っていた Unter Schloss キャンパスにも徒歩 15~20 分で行くことができたからだ。12 人ほどが住んでおり、大学の寮の中では一番小さい。共有キッチンで自炊は可能だが電子レンジが使えず、コンロも汚かった。そのため自分は電子レンジを買い、退寮するときに友達に引き渡した。 他の学生寮に関してですが、Engsbachstrasse はあまりおすすめしない。バスの本数が少ないのとトイレ、キッチン、シャワーを 10 人以上の人と共有しなければいけないからだ。Adolf-reich-wein は比較的バスの本数が多いのとキャンパスが近くにあるため評判は比較的良い(※授業によってキャンパスが違うので注意)。ただ街の中心部から遠く、山の上に立地しているため、積雪により身動きが取れなくなる場合がある。

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをされましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例:現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所: )

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等: )

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか?その際どのように対処しましたか?

外務省オンライン在留届にメールアドレスを登録し、定期的に安全情報を得ていた。ジーゲンは人口 10 万人程の田舎町で危険な思いはしませんでした。深夜に町を歩いたこともありますますが問題ありませんでした。ただベルリンやフランクフルトのような大都市の中央駅は少し雰囲気が悪かったです。また貴重品は手荷物には入れず、常に身に着けていた。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮では自分でルーターを購入する必要があったが、基本的には問題ない。しかし、ドイツは欧州の中でも回線が遅いほうなので注意が必要。電車の WIFI も繋がりはするが回線が異常に遅い。

現地で eSIM を購入した。(端末は日本から持参したものを使用)。電話会社のアプリをダウンロードしてアプリに料金をチャージして毎月通信料が引き落とされる形式。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

ドイツは入国前に”閉鎖口座”と言うのを開設しなければならない。これは、滞在月分の生活費をあらかじめ入金し、到着後に毎月定額で使えるサービスである。ビザ申請や滞在許可証の受け取りにも必要である。到着後に銀行口座を開設したが、制度が変わったため現在は閉鎖口座のアプリ(Expatrio)で支払い・送金・振り込み等が全て完結できる。また、同アプリで現地の保険に加入や国際学生証を発行できるため非常に便利である。ドイツは日本以上に現金主義なためある程度現金を持って行くことをお勧めする。主にタクシー、洗濯・乾燥機、クリスマスマーケットなどは現金のみのことが多い。

6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

調味料は持っていて損はない。自分の場合料理初心者だったので初めは持って行ったもので工夫していた。アジアスーパーはあるので調達は可能だが割高になってしまう。片道 2 時間半かければデュッセルドルフに行けるので、そこも割高だが日本のものなら何でもそろっている。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

## 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
19.5 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
<b>2)履修登録の時期・方法及び履修制限</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Deutsch A1.2	ドイツ語レベル A1.2
科目設置学部・研究科	Language center
履修期間	秋学期
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 210 分が 1 回
担当教授	Jessica Berger
授業内容	ドイツ語を学習する授業でレベルは下から 2 番目である。教科書を基に日常生活に役に立つ内容を学べる。
試験・課題等	毎週ドイツ語で簡単な文章を書く課題をオンラインで提出する。 2 回の中間テストと 1 回の期末試験がある。中間テストはスピーキング以外の 3 技能、期末テストは 4 技能全て。
感想を自由記入	下から 2 番目ではあるが授業は基本的にドイツ語で行われるため最初はきつかったが、徐々に慣れてきた。周りの学生たちは普通にドイツ語を喋っていたので危機感を覚えたが、内容自体は簡単だった。英語で質問すれば普通に英語で解説してくれるので、特に難しいとは思わなかった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
International human resource management	国際的人材管理
科目設置学部・研究科	Fakultät 3
履修期間	秋学期
単位数	4.5
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に100分が1回
担当教授	Dr. Stein Volker
授業内容	分野は国際経営寄り。外国での人材管理において事例を用いながら、どういったアプローチが効果的かを学べる。文化的な側面からも学習した。
試験・課題等	課題は無く、期末試験(論述筆記)のみ
感想を自由記入	教授の英語も分かりやすく、内容が面白かった。国際経営を今まで学習する機会が無かったので刺激的だった。また西洋人からはアジアがどう見えているかを知ることができたので非常に興味深かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Foundation of world trade law	世界貿易法の基礎
科目設置学部・研究科	Fakultät 3
履修期間	秋学期
単位数	6
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が1回
担当教授	Dr. Jörn Griebel
授業内容	2部構成になっており、前半がEUの法体系システムに焦点を当てて授業が進む。後半は世界貿易機関(WTO)やその前身のGATTのシステムに着目しながら法律をベースに授業を進めていく。
試験・課題等	課題は無く、口頭試験のみ
感想を自由記入	教授の説明が分かりやすく、留学生思いの人だった。また教授が頻繁に質問を投げかけ生徒が積極的に挙手して答えていたため、日本では見ない光景だと思った。内容が少しEuropean and International Economic Lawと被っており、修士向けの授業だったので、全体的に発展的な内容だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
English C1.1	英語レベル C1.1
科目設置学部・研究科	Language center
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に180分が1回
担当教授	Dr. Hendrik Winterstein
授業内容	教科書の内容に沿って授業を進める。授業の前半は毎回テーマが与えられそれについて議論する。後半は発展的な文法事項を学び、練習問題も解く。
試験・課題等	学期中にライティングとスピーキングの課題が各1回 中間試験と期末試験が各1回
感想を自由記入	C1レベルなのもあってか周りの英語レベルが高かった。また発言する機会が多く、授業方式の違いを実感した。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
European and International Economic Law	欧州および国際経済法
科目設置学部・研究科	Fakultät 3
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Dr. Jörn Griebel
授業内容	EUのシステムや法体系についての授業である。欧州裁判所に取り上げられた事例などを交えながら解説していく方式だった。
試験・課題等	課題は無く、口頭試験
感想を自由記入	教授の説明が非常に分かりやすく、留学生思いの先生だった。また教授が生徒に頻繁に質問を投げかけ、生徒も積極的に挙手をしていた。このような光景は日本で見られないと思った。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Basic Economics and Business English A	ビジネス英語 A
科目設置学部・研究科	Fakultät 3
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に90分が1回
担当教授	Dr. Monika Becker
授業内容	オックスフォード大学の英文の問題集を授業中に解いた。イギリス英語がベースとなっており、ビジネスの現場でも役に立つような表現を学べた。
試験・課題等	毎週数ページの課題が与えられ、次の授業の初めに答え合わせをしていた。 学期末に期末試験1回
感想を自由記入	英文や文法をドイツ語で解説していた時があったため理解できないときもあった。そのためドイツ語の勉強になった気がする。内容自体はそこまで難しくなかった。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)
<input checked="" type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> その他:
1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等
3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
現時点で希望する業界・職種はまだ決めておらずこれから決めます
4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。 就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
報告書を執筆している現在私は2年生なので帰国後3年生として、就活を始めようと思っています。まず就活という理由で留学を断念するのは非常にもったいないと思います。なぜなら就活はいつでもできますが、留学は今しかできないからです。もちろん卒業時期がずれるのは不安に思うかもしれませんが長い人生の中でたったの1年と考えたら僅かなものですし、就職後に留学しておけばよかったと後悔してからでは遅いです。
5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。
7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。  
(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	説明会やアドバイザーなどから情報を得る
	8月～9月	TOEFL IBT 受験
	10月～12月	オンライン応募、面接
留学開始年	1月～3月	先輩たちと直接連絡を取り、質問する
	4月～7月	現地大学とのやり取り開始、ビザ取得、保険契約、閉鎖口座開設、寮探し
	8月～9月	滞在先決定、現地保険契約、留学開始、オリエンテーション
	10月～12月	学業と日常生活
留学/帰国年	1月～3月	学業、帰国、就活開始
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留學生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

### 始めに

一番初めに大事なことを言います。少しでも興味があるなら絶対に留学に行きましょう。私自身も心から留学に行っても良かったと思っていますし、半年留学にしたのを後悔しているくらいもっと長く滞在したいと思いました。それくらい充実した生活を送れました。交換留学というお得な制度を使って海外大学で勉強・生活できるチャンスを無駄にしないようにしましょう。

### ジーゲン選んだ理由

理由は主に4つあります。1つ目は自分が英語圏に住んだ経験があるため、次に海外に住むのなら非英語圏に行きたいと思っていたからです。2つ目は自分の第2外国語はドイツ語だったからです。もし別の第2外国語だったら違う国に留学していました。3つ目は英語で出願できるからです。ドイツに限らず非英語圏の大学には現地語でしか出願できない場合があるので注意が必要です。4つ目は立地が良かったからです。日本からの直行便もあるフランクフルト国際空港から電車で2時間以内の距離にあり、何かと便利だと思いました。またケルン＝ボン空港、デュッセルドルフ国際空港、ドルトムント空港も電車で2～3時間圏内なのでかなり立地は良いと思いました。

### 学業・大学について

日本のように学年と言う概念が無く、学期数が基準となっています。「何年生？」ではなく「何学期目？」とよく聞かれています。そのためか20代後半でも学業を続けている人が多数いました。そのような環境を見て思ったのは4年で卒業し、新卒で働くのは数ある選択肢の一つに過ぎないと実感させられました。

### 生活全般

陸続きだったため電車で簡単に他国へ行くことができ、気軽に旅行ができます。近隣諸国を旅行して思ったのがドイツは西ヨーロッパの中では一番物価が低いです。そして東欧は更に物価が低いです。また治安も問題ないため東欧にも住んでみたいなど思い始めました。また気候は異常に寒く、11月頃から一桁台が続きます。よく非英語圏は言葉が大変そうだと言われますが、全然問題ないです。欧州は全体的に英語が通じるので、英語さえできれば大きな支障はなく生活できます。ただ、現地語ができるに越したことはないので余裕があれば渡航前にできるだけ勉強はしておきましょう。

### 新たな気づき

私を含めた日本人の留學生が口を揃えて言うのは結局日本が最強・最高な国と実感することです。例えば、電車が時間通りに来る、安くておいしい食べ物等、挙げたらきりがありません。このように自国と他国両方の良い部分と悪い部分が見えやすくなるのが留学のもう一つの醍醐味です。よく「日本と〇〇どっちがいい？」と聞かれますが、正直言って答えられません。

### 最後に

私が個人的に思うのは留学の最大の醍醐味は自分の頭の中にある常識・価値観をぶっ壊してくれることにあると思います(もちろんいい意味で)。人間は興味深いことに一度他の世界を知るとまた別の世界も冒険してみたいものなのです。非英語圏は大変そうと思われがちですが、全くそういったことはありません。むしろ非英語圏からしか得られない学びがたくさんあると私は信じています。